

宮城学院女子大学 教育学部開設記念シリーズ企画 “今、問う 教育の力”

第3回 アクティブ・ラーニングで拓く次世代の授業 —教科への積極的な活用のあり方について—

日 時 : 2016年1月23日(土)13:00~

会 場 : 宮城学院女子大学 講義館3階301教室(C301)

参加費: 無料

受付開始

12:45 ~

第1部 アクティブ・ラーニングとは何か? 13:00~13:25

宮城学院女子大学 准教授 板橋 夏樹

第2部 各教科でのあり方について 13:30~15:30

◇算数科: 「算数・数学の学習観を変える数学教材の開発」

講師: 宮城学院女子大学 教授 中込 雄治

◇生活科・総合的な学習: 「キー・コンピテンシーを育てる授業づくり」

講師: 宮城学院女子大学 教授 生野 桂子

◇理科: 「能動的な学びを促進する2つのエッセンス」

講師: 宮城学院女子大学 准教授 板橋 夏樹

【主催】 宮城学院女子大学, 宮城学院女子大学発達科学研究所

【お問い合わせ】 宮城学院女子大学発達科学研究所 担当: 紺野

TEL: 022-277-6210 メールアドレス: child@mgu.ac.jp

【アクセス】 駐車場に限りがあるため, 出来る限り公共交通機関をご利用下さい。

— 仙台駅から — A: 西口バスプール3番 「宮城学院前」行乗車 → 「宮城学院前」下車。

B: 西口バスプール2番 「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」行乗車 → 「宮城学院前」下車。【所要時間: 約30分・料金350円】

— 地下鉄旭ヶ丘駅から — 3番バス停 「東勝山団地經由宮城学院前行」乗車 → 「宮城学院前」下車。【所要時間: 約10分・料金230円】

— 地下鉄八乙女駅から — 2番バス停 「北環状線經由長命ヶ丘団地」線乗車 → 「上谷刈山添」下車。【所要時間: バス約9分+徒歩7分・料金230円】

宮城学院女子大学では、教育学部開設にあたり、“今問う教育の力”と題して、シリーズで、研究会を開催してまいりました。今、書店では、「アクティブ・ラーニング」と名のついた書籍が所狭しと並んでおり、いかに注目されていることかが分かります。一方、学校現場においては、具体的にどうすればよいか分ならず、混乱している状況があります。そこで、第3回となる今回の研究会では、次の学習指導要領の目玉として注目されているこのアクティブ・ラーニングに焦点を当て研究会を開催いたします。今回は幾つかの教科等での具体的な取り組み方について分かりやすく解説します。

第1部 アクティブ・ラーニングとは何か？

講師 板橋 夏樹

アクティブ・ラーニングとは、教員による講義中心の学習から学習者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称です。大学教育の質的転換を受けて平成26年11月20日に文部科学大臣から中央教育審議会に出された『初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）』に端を発し、次期学習指導要領での大きな改革の柱と目されています。今回の研究会では、このアクティブ・ラーニングとは何か、また、各教科でどのように行すべきなのか、その新しい小学校教育のあるべき姿を考えてみたいと思います。

第2部 各教科でのあり方について

◇算数科：「算数・数学の学習観を変える数学教材の開発」

講師 中込 雄治

数学的課題に主体的に取り組む児童生徒を育成するためには、児童生徒が自分なりにいろいろ考えてみようとする姿勢を培うことが必要です。しかし、多くの児童生徒が「解法は覚えるもので、それに数値を当てはめて問題を解くのが数学の学習である」という数学に対する閉塞的な学習観に囚われている実態があります。こうした学習観を払拭するとともに、「自分の考えと既習事項を関係付けて自分なりの解法を見出していくのが数学の学習である」という創造的な活動として数学の学習を捉えさせること、つまり数学の学習観の転換を図ることが、喫緊の課題であると言えます。そのための一つの方策として、児童生徒が主体的に取り組もうとする数学教材の開発を考えていきましょう。

◇生活科・総合的学習：「キー・コンピテンシーを育てる授業づくり」

講師 生野 桂子

学校教育が目指す「生きる力」は、各教科等と総合的な学習の時間との横断的・総合的なカリキュラムによって可能となるといわれています。生きる力とは何かを問い、これを育成すべく、授業をデザイン・実践する力が教師に求められます。ここでは、まず、生きる力の構成要素であるコンピテンシーとは何かを踏まえ、それを育成する授業デザインのありかたを考えます。具体的には、思考力の育成のための思考ツール、学び方を育てるための学習方略、社会的な学びの意味と学びあいの活用等について、生活科・総合的な学習の時間・幼稚園での学び等を取り上げて考えます。紹介する教育実践の事例からは、教師が授業デザイン力を発揮する総合的な学習の魅力が伝わると思います。

◇理科：「子ども達の能動的な学びを促進する2つのエッセンス」

講師 板橋 夏樹

理科では、これまでも探究能力や問題解決能力の育成が課題として挙げられ、授業の中では班毎に行われる観察・実験活動や協働的な学びを行う活動が行われてきました。まさに、アクティブ・ラーニングが行われてきたように思えます。しかし、これらの活動の中で、子ども達は本当に主体的に考え、活動してきたのでしょうか。ここでは、子ども達(学習者)が課題を自ら発見し能動的に取り組むための事例として、「ジグソー学習」と「ダジック・アース」教材の活用を提案します。前者ではアクティブ・ラーニングの視点からジグソー学習を問い直し、この学習形態の利点を再確認します。後者では、京都大学の齊藤昭則先生が中心となって開発したICT教材で、地球や宇宙に関するビッグ・データを理科教材「ダジック・アース」を用いて、学習者の知的好奇心や関心を高め能動的学習を高める授業の工夫を考えます。これらを用いて、今後の理科でのアクティブ・ラーニングの可能性を皆さんと考えたいと思います。

【2016年春 いよいよ教育学部がスタート！】

2016年4月より宮城学院女子大学 教育学部教育学科がいよいよ始まります。幼児教育専攻、児童教育専攻、健康教育専攻の3つの専攻により、これまで以上に専門性を高める充実のカリキュラムを提供します。

創立130周年を迎える2016年度、さらに飛躍を遂げる教育学部にご期待ください。

